

学界消息

朝鮮学会 第十七回大会

昭和四一年一〇月八日・九日

於 天理大学

〈講演会〉

高麗の絵画について

正祖とその時代

熊谷 宣夫
末松 保和

〈シンポジウム〉

「李氏朝鮮研究の課題を話しあおう」

小説からみた英・正時代

諺文文献からみた英・正時代

李氏朝鮮後期における実学についての研究と問題点

李氏朝鮮末期における建築の動態

中国文化の伝流

日本関係の研究史とその問題点

法政大学史学会 大会

昭和四一年一〇月二二日

於 法政大学

武蔵国造と足立郡司武蔵武芝

相模国大友郷について

キリシタン布教における慣習の役割

安野 真幸

曹洞教団の地方僧録と大名の転封——奥州三

大村 進
芥川 龍男

春領における録所争論——

近世末期甲州八ヶ嶽山麓の農村——用水論争

を中心にして——

阿蘭陀風説書の受理・翻訳および進達の順序

片桐 一男

シーボルトの日本植物学に及ぼしたる影響

石山 禎一

小野友五郎小伝——幕末維新期の知識人——

大森 実

隣邦兵備略について

安岡 昭男

明治初期の外国語学校——官立校を中心として——

青木 光行

紀元二千六百年祭の背景

那須 良郎

上智大学史学会 第十六回大会

昭和四一年一〇月二二・二三日

於 上智大学

〈公開講演〉

日本農業の起源について

八幡 一郎

古代末期におけるキリスト教と異教の対立

秀村 欣二

〈研究発表〉

「ドレフュス事件」における知識人の役割について

藤野広一郎

千葉県長生郡の横穴

佐藤克己・織本重道

テオドンウスの勅命 Cod. Theod. XVI. 1, 2

をめぐって

ビュリタン革命前におけるミルトンの改革思想について

仲田 孝男

初期の太政大臣について

松本 肇

一八四〇年代におけるアイルランドの移民問題

高橋 裕之

フランス第三共和制成立とその背景について

川本 隆治

森有礼の「磨刀論」について

織田 陽二

ベケット論争について

安原 純生

Marsilius von Padua について

広島 健治

我が国近世のヨーロッパ科学受容についての一考察

長原 悟

天平年間に来日した波斯人李密臣について

吉村 茂樹

古代修道生活における教会意識

鈴木 宣明

沖縄における中国帰化人の世系譜について

白鳥 芳郎

京都市立博物館

中世エジプトにおける中国文化の足跡

三上 次男

宋江は二人いたか

宮崎 市定

日本思想史研究会 第三回研究大会

昭和四一年一月五・六・七日

於 同志社大学

古代神観の一考察——イヴィル・アイ(邪視)

をめぐって—— 西田 長男

「もののあはれ」と幽玄

江戸時代人の仏足石造頭の意図 佐々木利三

「愚管抄」の著作年代 石田 一良

世阿弥の美学思想 下店 静市

中蔵門月の儒仏一致思想 春日 佑芳

戦国武将の印章と思想 荻野三七彦

孝道におけるヒューマニズムの問題——中江 伊藤 友信

藤樹の孝を中心として—— 宮西 一猷

禅茶録の「教奇」論について 平 重道

会津藩と神道 三崎 義泉

天台教学(とくに止観)と美意識 稲飯 博一

記紀における代受苦の神 松宮 兼房

神社の起源——上代思想に即して—— 安井 良三

物部氏と仏教 江畑 武

古代災異思想の一考察 笠井 昌昭

古代説話の仏教説話的変容——信貴山縁起の 玉懸 博之

ばあい—— 川口 博

鎌倉時代における慣習法としての道理から成

文法の制定まで

鎌倉仏教における自然への同化

北条実時と源氏物語

増賀聖説話の形成と変貌

兩童子の信仰

御伽草子の神道思想

鎌倉仏教における自然への同化

北条実時と源氏物語

増賀聖説話の形成と変貌

兩童子の信仰

御伽草子の神道思想

古典における原本状況の科学的研究について

——教行信証坂東本調査を中心として——

真和本「後三年合戦絵」の一考察

南北朝時代における天の思想——「梅松論」

をめぐって——

石田梅岩の社会像

明津国字解における徂徠の法思想

穂積以貫「経学要字箋」と近松の浄瑠璃

——義理人情を中心として——

司馬江漢の実用主義と虚無主義

草莽崛起論と脱藩

田岡嶺雲とナショナリズム

西周における天と道德

初期同志社の教学

史学会 第六五回大会

昭和四一年一月二日・一日

於 東京大学

「公開講演」

封建制に関する若干の問題——中世を中心と

して——

フィリップ・オーギュストとヘンリー二世及

び頼朝の時代の封建制度

ジュオン・デ・ロングレ

後漢書の倭国観の誤謬及び正しい倭・倭国・

女王観

律令官人制の出身法について

摂関家領の相続について

甲賀郡山中氏と郡中惣——小領主の規定のた

めに——

近世初頭における代官支配について——伊奈

備前守忠次を中心に——

寛文元禄期の村方騒動——静岡県大井川下流

域村落を中心として——

旗本神保氏の村落支配について——正徳年間

知行村の出訴一件を中心に——

「東洋史部会」

漢代における「臣某」の形成について

マウリヤ朝時代における仏教の発展——伝道

師派遣伝説の再検討——

北朝仏像銘の形態的分類

杜佑の天寶歳計記事

老子の孝慈

Cola 朝期における brahmadeya 村落増加

石井 良助

牧 健二

加藤 晃

義江 彰夫

高木 昭作

村 上 直

増本 増夫

川村 優

尾形 勇

山崎 元一

の意味

辛島 昇

宋代運船業の経営構造

斯波 義信

司馬光及び王安石の自然観

寺地 遼

壬辰・丁酉役後、日鮮往復文書改作の背景

長 正統

崇徳改元をめぐる諸問題

松村 潤

フィリピン革命の性格

池端 雪浦

波斯国王居和多の上表について

榎 一雄

〈西洋史部会〉

六、七世紀におけるローマ帝国のバルカン国境線の変動

杉村 貞臣

中世末期イギリスにおける中央行政機関への俗人の進出について

城戸 毅

近世ヨークシャーの農村都市と特権都市

坂巻 清

ビスマルクとオーストリアの内政——議会主義と民族問題を中心に——

矢田 俊隆

十九世紀ポーランドの革命運動について

阪東 宏

アイルランドの土地問題(2)——C・D・Bの史的意義について——

古田 哲一

ワイマール共和国における東部救済政策について

木谷 勤

ナチス農業政策の問題点

古川 栄輔

日本史研究会 一九六六年度大会

昭和四一年一月一日、一九九日

於 立命館大学

〈個制研究報告〉

畿内と東国——古代案業について——

田中 琢

平氏政権論序説

高田 実

美濃における幕藩制の支配の成立とその特質について

原 昭午

三一運動と日本の弾圧

姜 徳相

〈共同研究報告〉「歴史像の再構成と歴史法則」

(古代) 七世紀の社会と「大化改新」像

古代史部会

(中世) 中世後期の村落

仲村 研

(近世) 明治維新の思想史的基盤

松浦 玲

(近世) 日本帝國主義の國際的地位

井口 和起

仏教史学会 第一八回学術大会

昭和四一年一月一九日

近世本願寺教団における本末制度と寺格の關係について——絶対主義教権確立の

一前提——

東寺山水屏風の図題について

サカ族と仏教

チベット密教の思想的背景

児玉 識

堂谷 憲勇

香川 孝雄

小川 一乗

法然仏教の波紋と鎌倉諸匠の態度

石田 充之

愚管抄の成立年代考

福井 康順

朝鮮史研究会 第四回大会

昭和四一年一月一九・二〇日

於 明治大学

〈共通課題〉朝鮮社会の歴史的發展

前近代史

武田 幸男

近現代史

梶村 秀樹

朝鮮における先社会より古代国家への移行に關する二・三の問題

三上 次男

朝鮮身分制の変質——部曲の崩壊——

江原 正昭

土地所有關係からみた科田法

有井 智徳

朝鮮における資本主義萌芽形成の研究をめぐって

金 曜頭

一九三〇年代日本帝國主義の朝鮮工業化政策とそれが朝鮮におよぼした影響について

小林 英夫

南朝鮮の農地改革について

谷浦 孝雄

大谷大学仏教史学会 大会

昭和四一年一月二六日

於 大谷大学

慈雲尊者について

多田 孝円

坂東本教行信証の史料科学的研究 古田 武彦
善宗本「御伝鈔」について 名畑 崇
阿弥陀堂建築について 藤島 達郎
〈特別講演〉

中世社会における聖の意義 黒田 俊雄

大塚史学会 一九六六年度大会

昭和四一年一月二六日・二七日

於 東京教育大学

二六日 大会シンポジウム 共通テーマ「東ア

ジア前近代における国家権力と農民」

宋代における国家権力と農村——水利問題を

通じて—— 長瀬 守

中世成り期における国家権力と村落

島田次郎・高田実

二七日〈日本史部会〉

日本における石炭産業の成立過程 橋本 哲哉

幕藩体制下における江川家の動向 高橋 敏

近世清水湊周辺村落の構造 吉原健一郎

中世末真宗教団の本末関係 新行 紀一

古代東国の仏教と観音像造立 早川 征子

「宮寺三綱都維那尼内」について 須田 春子

大王・大連・大臣三者 大畑 正一

〈東洋史部会〉

三國魏の屯田をめぐる

飯田 国雄
相田 洋

ゲザル王の物語とボン教 光島 督
中国共產党と農民問題 栃木 利夫
商鞅爵制の一問題 千葉 茂雄

河西王国の性格、特に前涼を中心として

後藤 勝

宋代の鄉村統治——治安維持の場合——

渡辺 頼房

古ジャワ史料から見た元 (Yuan) のジャワ

進討 仲田 浩三

清代部院大臣の滿漢併用について 榎木野 宣

李朝後期実学の研究動向 宮原 兎一

元代の農村 岡本 敬二

〈西洋史部会〉

ヴァイマル共和制期におけるドイツ共產党に

ついての一考察——統一戦線不成立の原因

を中心に—— 井代 彬雄

ジョージ三世論——W.H.G. 史観とZamirian

使徒パウロの皇帝「上訴」 穂積 重行

ヨーロッパの旅——若い女性の視角—— 弓削 達

〈考古部会〉 岡本苑子・後藤江恵子

松戸市殿平賀貝塚の調査 村上 俊嗣

根室市、温根元遺跡の調査 前田 潮

六月例会予告

日時 六月三日(土) 午後一時出発
見学会 ふすま絵観賞

大徳寺聚光院——西本願寺書院——大
覚寺(バスにて巡回)

臨地講師 武田恒夫氏

本例会に限り参加会費 三〇〇円

※参加御希望の方は、会費を添えて
当会宛お申込下さい。先着五〇
名にて〆切。

一九六七年二月廿五日印刷 定価三〇〇円
一九六七年三月一日発行
史 林 (第五〇巻第二号)

発行人 京都市左京区吉田本町
京都市文学部内

史 学 研 究 会
理事長 小 葉 田 淳

印刷所 京都市下京区西七条御所ノ内町五〇
中村印刷株式会社